

令和7年度 沖縄県 英語教育改善プラン

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む教員の指導力の向上

○授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5:96.2% ⇒ R6:97% ⇒ R7:98% ⇒ R8:99% ⇒ R9:100%)

○「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施した学校の割合 (R5:97.2% ⇒ R6:98% ⇒ R7:99% ⇒ R8:100% ⇒ R9:100%)

○英語の授業において、「児童が1人1台端末を活用した授業」を実施した学校の割合 (R5:95.7% ⇒ R6:97% ⇒ R7:98% ⇒ R8:99% ⇒ R9:100%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化 (パフォーマンステスト含む)
 教師の英語力・指導力 (専科教員含む)
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用 (AIを除く)
 AIの活用
 その他

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業中における50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 (R5) **96.2%**
- ②「話すこと」のパフォーマンステストを実施している学校の割合 (R5) **97.2%**
- ③1人1台端末を活用した授業を実施した学校の割合 (R5) **95.7%**

未だ改善が必要な点

- ①学習到達目標の整備状況は改善が見られるが、全学校で整備されている状況ではない。
(R5)
設定 66.9%
公表 41.7%
把握 57.1%

2. 要因分析

①②③

令和元年度から令和5年度にかけて小学校スキルアップ研修会(対象：小学校全教諭悉皆)を実施したことで、学習指導要領の着実な実施に向けた言語活動の捉えやその具体についての理解が進んだと考えられる。また、授業参観やワークショップを実施したことで、学習展開や評価方法等の具体を事例をもとに共有することができたからだと考えられる。主な研修内容は、公開授業参観、指導主事による学習指導及び評価に関する解説、英語専科指導教員によるワークショップである。

- ①学校間の差が見られる。また、外国語教育担当者の理解等は進むが、担当が変わると活用状況も変わり、校内での共有が不十分だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①を達成するための下記2事業の実施

○小学校英語ステップアップ研修会

- ・各教育事務所にて年間2回実施
- ・対象：全小学校外国語活動及び外国語担当者(各学校2名)
- ・内容：公開授業及び協議

○小学校英語専科指導教員連絡協議会

- ・義務教育課にて年間3回実施
- ・対象：英語専科指導教員(44名)
- ・内容：公開授業及び協議

小中高大連携の推進

児童生徒の学びの継続性を確保するため、小中高大連携研修会にて、各校種における公開授業を行う。(参集とオンデマンドのハイブリット型)

義務教育課ポータルサイトによる情報提供

①「沖縄県版CAN-DOリスト」を掲載し、各学校へ作成目的の周知、作成及び活用の支援を行う。

一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

教員採用試験における加点措置の実施(中学校又は高等学校英語教諭普通免許、英検準1級以上、TOEFL iBT72点以上、TOEIC Listening Test 785以上のいずれか)。

令和7年度 沖縄県 英語教育改善プラン

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む教員の指導力の向上

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 40.3% R6: 37.6% ⇒ R7: 45%)

○授業中における50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5: 67.5% R6: 53.7% ⇒ R7: 78%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化 (パフォーマンステスト含む)
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用 (AIを除く)
 AIの活用
 その他

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR B2レベル相当の英語力を有する英語担当教員の割合 (R5:66.6% ⇒ R6:67.4%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (R5:40.3%⇒R6:37.6%)
- ②授業中における50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 (R5:67.5%⇒R6:53.7%)
- ③全国学力・学習状況調査結果から、特に「話すこと」「書くこと」の領域において課題がある。

2. 要因分析

- ①教員自身が英語に対する関心が高いこと及び教員採用試験での加点制度の効果が考えられる。
- ①②『言語活動を通して』資質・能力を育成する」という理解が十分に図られていないことが要因だと考えられる。言語活動の割合について、全国平均に達していない市町村が44%あり、県内でも地域間差が顕著である。
- ③指導と評価が一体的に行われていないことが要因と考えられる。また、目指す生徒の具体的な姿 (b 基準) の設定と生徒の見取りと継続した指導が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②教師の指導力向上の推進

『言語活動を通して』生徒の資質・能力を育成するという理解を引き続き図り、授業改善を促進するため、**授業力アップ研究会**を年に2回実施する。

内容：課題を踏まえた協議及び授業づくりワークショップ

③テスト改善の推進

指導と評価の一体化を図るため、**STEP UP研修会**を年に2回実施する。

内容：指導と評価の一体化を目指したテスト作成に係る講話及びグループ協議

①②③指導主事等による教科会支援の推進

各種研修会後の授業実践をフォローするため、教育事務所指導主事、指導主事補及び授業改善アドバイザーによる教科会支援の充実を図る。また、授業づくり学習会 (1月) にて、令和7年度の実践及び好事例の紹介等を行う。

義務教育課ポータルサイトでの情報提供

実践報告、その他好事例等を掲載し、目指す授業像の共有を図る。

小中高大連携の推進

生徒の学びの継続性を確保するため、**小中高大連携研修会**にて、各校種における公開授業を行う。(参集とオンデマンドのハイブリット型)

令和7年度 沖縄県 英語教育改善プラン

目標

指導と評価の一体化の促進を通じた生徒の英語力向上（CEFRA2レベル相当50%）
及び国際性を身に付けたグローバルに活躍できる人材の育成

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6: A2以上 43.0%、B1以上 10.9% ⇒ R7: A2以上 50%、B1以上 20%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒割合が増加
(R5:40.3%→R6:43.0%)
- ②CEFRB2レベル相当以上の英語力を取得している教師の高い割合の増加。
(R5:91.3%→R6:94.7%)
- ③授業における生徒の英語による言語活動時間の割合の増加
(R5:60.5%→R6:61.5%)

未だ改善が必要な点

- ①授業における、英語担当教師の英語使用状況において発話50%を英語で行っている割合が減少
(R5:49.2%→R6:45.5%)
- ②CEFRA2レベル相当以上が、増加しているのに対しCEFRB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合の減少
(R4: 12.1%→R6:10.9%)

2. 要因分析

- ①英語小中高大連携推進事業において、英語能力判定テスト（英検IBA）、英語小中高大連携研修会を実施することで、改善したと考えられる。
- ②研修等を通して、英語担当教師の英語力が向上し、検定等に対する意欲も高まったと推察する。
- ③指導と評価の一体化を図るため研修等で英語による言語活動を促進し、評価の改善を促した結果だと推察する。

- ①アンケート調査によると英語の授業を英語で行うことのメリットが感じられていないことが要因だと考える。研修等で、必要性を確認し、効果的な方法等を示唆する必要がある。
- ②B1レベル相当以上が年々減少していることについて、さらに高いレベルに挑戦する意欲が薄れている要因と考えられる。授業及び各事業においてさら上のレベルに挑戦するよう促し動機づけをしたい。

3. 目標を達成するための施策・事業

①授業改善の推進

指導と評価の一体化の促進ため、以下のを行う。

○教育課程説明会

令和6年度は、高校英語担当教員対象にオンラインで観点別評価の指導と工夫について協議を行った。また、各学校で実施している、パフォーマンステスト等の評価方法の情報共有を行った。今後は各学校の実践事例等をTeamsで共有するなど県全体への周知も行う。

○英語小中高大連携研修会

令和6年度は県内全ての小学校、中学校及び高校から1名以上の教員が参加するオンデマンド研修を実施した。異校種の授業観察や県内大学の英語教育専門人材の招へい等により、本県英語教育の課題の共有や対応策について理解を深めた。令和7年度より充実した研修会にするためハイブリッド型を行う。

②国際性に富む人材育成事業の推進

創造性・国際性に富む人材を育成するため、以下の事業を行って散る。

○国際性に富む人材育成留学事業（長期留学）

○グローバルリーダー育成海外短期研修事業

- ・アメリカ高等教育体験研修（3週間）
- ・専門高校生国外研修（2週間オーストラリア）
- ・高校生海外雄飛プログラム（2週間ハワイ）

○アジア高校生オンライン国際交流事業

沖縄県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50%	40.3%	50%	43.0%	50%		55%		60%		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20%	12.1%	20%	10.9%	20%		20%		20%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60%	60.5%	65%	61.5%	65%		70%		70%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70%	65.9%	70%	66.5%	70%		80%		80%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	81.7%	100%		100%		100%		100%	
		公表(%)	70%	42.3%	70%		70%		70%		70%	
		達成状況の把握(%)	90%	57.7%	90%		90%		90%		90%	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	95%	91.3%	95%	94.7%	95%		95%		95%			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75%	49.2%	75%	45.5%	75%		75%		75%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	45%	40.3%	43%	37.6%	45%		48%		50%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75%	67.5%	75%		78%		80%		85%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100%	87.9%	100%		100%		100%		100%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	99.3%	100%		100%		100%		100%	
		公表(%)	65%	82.1%	85%		85%		85%		85%	
		達成状況の把握(%)	70%	77.1%	80%		80%		85%		85%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60%	66.6%	68%	67.4%	68%		70%		70%		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85%	60.7%	65%		65%		70%		75%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	65%	66.9%	80%		85%		90%		100%
		公表(%)	50%	41.7%	50%		55%		60%		65%
		達成状況の把握(%)	50%	57.1%	60%		65%		70%		75%